

◆ 第Ⅰ回学校のあり方検討委員会 要点記録

令和８年１月２９日（木）午後７時～午後８時４５分

養老町役場 ４階大会議室

■出席者：委員１０名、事務局５名

	○町民憲章朗唱 ○開会 ○町長あいさつ ○教育長あいさつ ○本委員会について ○委員及び事務局職員紹介
	○報告事項 ・住民説明会の開催結果 <事務局より説明>
	○協議事項 （Ⅰ）本委員会の検討項目及び検討スケジュールについて <事務局より説明>
委員長	ただ今の説明から、何かご意見等ございますか。
A 委員	本委員会と専門部会はどのような関係性で進められるのか。 本委員会の開催に合わせて、随時専門部会から報告が行われるという理解でよいのか。
教育長	ご認識のとおり。
委員長	事務局が提示する各専門部会での検討事項（案）に基づき、各部会で検討を進め、その結果を本委員会に報告いただき、本委員会で議論を行うという流れを想定している。
A 委員	部会の開催時間は決まっているのか。また、部会によって開催回数が異なるのではないかと考えている。各部会の見通しについて、今後詰めていただきたい。
教育長	開催時間や開催回数については、検討事項にあわせて部会員で決定していただく。
委員長	部会ごとに検討事項が異なるため、開催時期や開催回数に一定の偏りが生じるものと考えている。 ３月に開催予定の第Ⅰ回部会において、検討スケジュール等を議論していただき、開催時期や回数を決定していきたい。 本委員会の検討スケジュール（案）及び検討項目（案）については、特にご意見がないため、概ね原案のとおり進めていく。 現時点で、部会における検討事項について、何かご意見等ございますか。
B 委員	本委員会では、令和８年度は主に建築に関することや適正配置について検討となっている。そのため、令和８年度前半は主に施設通学部会で議論することが多く、その他の部会は令和８年度後半から検討を開始すれば良いという認識でいる

	が、その理解で良いか。
委員長	重点的に議論する時期は、部会ごとに異なるものと考えている。 ただし、例えば教育方針によって施設の在り方が変わることも想定されるため、施設整備に関する検討と教育方針に関する検討は、並行して進めていく必要がある。 また、PTA地域部会や総務部会においても、先進事例やあり方に関するメリット、デメリット等について、事前に情報収集を行う等、あらかじめ準備を進めておけると良いと思う。
C委員	検討事項は、今後早い段階から増えてくると思う。そうになると、検討を開始する時期についても柔軟に見直していく必要がある。極論だが、課題を思いついた時点で随時検討を進めていく姿勢を持つことが重要だと思う。 また、総務部会の検討事項として「留守家庭児童教室」が挙げられているが、児童が学校以外で過ごす時間の方が長いことを踏まえると、その時間帯をどのように過ごすかといった点で議論が広がっていくと思う。 事務局が各部会の検討項目をまとめるとされているが、部会を設けることで意図せずセクショナリズムが生じる可能性がある。そのため、部会員がはじめから、主体的に情報収集を行うことを共通のルールとして定めておくことで、より自由闊達な議論につながると思う。
D委員	各小学校において特色ある教育が行われている中で、中学校区ごとに1校へ統合していくことは、非常に大変だと思う。そのため、教育部会においても、さまざまなことを取り入れながら、どのようにまとめていくか、熟議していく必要があると思う。
E委員	部会によって検討の進め方や流れは異なるため、委員としては、アンテナを高く張りながら議論したいと思う。また、4月になると委員の一部が交代することから、引継ぎも重要だと思う。
F委員	各部会には、それぞれ重点的に検討を行う時期があると思う。 施設通学部会に所属しているが、新しい学校づくりに関わる事項に加え、空き校舎の活用検討等も含まれるため、検討内容が非常に多岐にわたり、難しさを感じている。
教育長	空き校舎の活用検討については、本委員会と部会の役割を明確にしておいた方が良い。
G委員	今後、部会や本委員会において議論を進めていく中で、住民説明会を実施するまでに、どのように住民へ情報を提供していくか。まずは、会議を実施していること自体を周知することからだと思うが、丁寧に情報を出していく必要があると思う。
H委員	各部会における検討事項については、できる限り早い段階から着手することが望ましいと思う。一方で、検討事項の中には、検討に時間を要するものもある。 例えば、統合校がいずれの学校になった場合であっても、スクールバスを使うことになると思うが、スクールバスの離発着スペースを敷地内に確保できるのか、ま

	た、敷地内に確保できない場合には、どのように対応するのか等、早期に検討を開始する必要がある事項もある。 そのため、第１回部会において、こうした優先的に検討すべき事項を見極めていただくと思う。
I 委員	通学体制を考えると、地域ごとに異なる条件が出てくる。その点について保護者も不安を感じているのではないかと思う。 まずは、どのような学校を目指すのかを決める必要がある。これが早期に整理されれば、各部会においても、より早く具体的な検討を進めることができるのではないかと思う。
町長	４つの部会が設置される中で、事務局がすべての会議内容を把握し、情報共有を行うことは大変だと思う。各部会にはそれぞれ検討事項があるが、委員だけでは判断が難しい専門的な事項も含まれるため、外部の専門家を適切に活用しながら、幅広い意見を取り入れて議論を進めていただきたい。
委員長	各部会においては、検討事項を一つ一つ具体的に議論していただき、その結果を本委員会へご報告・ご提案いただきたいと思う。 検討スケジュール及び検討項目については、原案どおり了承を得たものとして進めさせていただく。
	○協議事項 （２）小学校の適正配置について <事務局より説明>
委員長	資料１４ページをみると、各小学校が中学校区のどの位置にあるかが確認できる。通学を考慮すると、中学校区の中央に近い位置にある方が、児童の通学負担が比較的少なくなることが想定される。また、統合時点で１学年２学級とした場合、特別支援学級も含めて最低でも１５学級程度が必要となり、これに加えて特別教室の確保も求められることから、一定規模の校舎の規模が必要である。 これらを踏まえ、小学校の適正配置について何かご質問やご意見等ございますか。なお、本委員会において統合校を決定するものではなく、本委員会としての案をとりまとめ、町が検討を行う際の参考としていただく。
B 委員	議論の観点として、自身が通っていた小学校と中学校しか知らなかったが、学校ごとに校舎のレイアウトが異なることに改めて驚いた。 児童と教職員の動線を考慮した望ましいレイアウトがあるのであれば、統合校を決めたうえで、その考え方を取り入れた改修ができると良いと思う。
D 委員	高田中校区の場合、養北小学校は会議室がなく、１学年２学級の場合には教室数も確保できない。また、スクールバスの離発着スペースを確保することも困難。 日吉小学校は、１階をみると１学年１学級分の教室しか確保できない。スクールバスについては、公民館を活用することで離発着スペースを確保できる可能性がある。ただし、通学距離を考慮すると、養北小学校と日吉小学校に統合することは難

	しいのではないかと思います。
E 委員	上多度小学校は、教室数やスクールバスの離発着スペースを確保することが難しいと思う。統合校を決定するにあたって、その根拠が客観的に示されることで、地域住民の理解や納得も得やすくなるのではないかと思います。
A 委員	基本的に、学校規模が大きく、統合した時に広いということが最も重要だと思う。
F 委員	広幡小学校は、教室数やスクールバスの離発着スペースを確保することが難しいと思う。 また、東部中学校は中学校区の中央に位置しているが、家庭訪問で東部中学校からどの方面に行く場合でも距離が遠いと感じた。東部中学校区はエリアが広いため、通学方法について十分な検討が必要である。
G 委員	校舎の規模やスクールバスの離発着スペース、移動する児童数を考慮すると、高田中学校区については養老小学校へ統合することが適切だと思う。 ただし、統合時に 13 学級からのスタートを想定しているため、教室以外の残余スペースをどのように整備・活用していくかについても考える必要がある。 また、高田中学校は、小学校を統合できる規模を有する施設である。小学校の再編が進む中で、中学校の施設環境や教育課程等も含め、小学校と中学校の連携の在り方を考える必要があると思う。
C 委員	広幡小学校は、距離的には高田中学校区の方が近いにも関わらず、なぜ東部中学校区に通うのか疑問に感じる。 校区の境界線については、今後住民からも意見が出てくるのではないかと思います。
I 委員	養老小学校は、以前は 1 学年 5 学級あったため、設備面でも問題ないのではないかと思います。 地域住民も全体で考えれば、こども同士が競争心をもてる環境で教育していきたいという思いを持っていると思う。
H 委員	現在出ていない観点としては、築年数が挙げられる。東部中学校区では笠郷小学校の屋内運動場の築年数が比較的新しい。 今後、耐久年数を検討する必要があるが、統合することを考えたときに、その建物が残りどの程度使えるのかも念頭に置いて検討すると良いと思う。
町長	さまざまなご意見を頂戴して、筋道は見えてきたと感じる。
委員長	各小学校を観点別に評価した表を作成することで、検討を進めることができると思う。町民への説明を丁寧にできるように段階を踏む必要があると思っている。
A 委員	本委員会で統合校を決めるのか。
委員長	本委員会では決定せず、委員会としての最適案をとりまとめる。
H 委員	6 月頃に先進事例の視察に行く予定だが、統合校の規模や配置を把握したうえで行かないと具体的なイメージが湧かないと思う。 5 月の委員会で統合校案をとりまとめた場合、6 月までに概ね決定できるのか。そのあたりのスケジュールを教えてください。

委員長	本日皆様からいただいた意見や、これまでの在り方委員会における議論を踏まえると、校舎の規模やスクールバスの離発着スペース、中学校との連携といった観点から、高田中校区については養老小学校、東部中学校区については笠郷小学校が適切ではないかという点について、概ね共通の認識が得られたように感じる。 統合校の第１案として、この２校を対象に検討を進めるということによろしいか。
町長	地理的条件や校舎の規模、地域性からみても案の２校は妥当ではないかと思う。
委員長	学校がなくなるとこどもの声がなくなってしまうといった心配も当然あると思う。空き校舎の活用や、公民館を中心とした地域づくりをしてこどもの声がなくならないような仕組みも同時に検討する必要があると思う。 現時点での案として養老小学校と笠郷小学校の２校を統合校として検討を進めたいと思う。
	○その他 ○閉会